
魔物と三人の盗賊

ただのすけ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔物と三人の盗賊

【Nコード】

N4906J

【作者名】

ただのすけ

【あらすじ】

とある古城で、そこに巣くう魔物に三人の盗賊が捕まってしまう。三人は、”ある取引”を魔物に持ち掛けられます。そこで彼らは……。

「人間が舞い込むなど久しぶりだわい」

とある辺境の古城。三人の男たちが魔物に捕えられていました。彼らは盗賊の一味でした。財宝の噂を耳にしてこの城にやってきたところを、城に巣くう魔物に捕えられてしまったのです。

魔物は大きなまなこで、三人を値踏みするように眺めました。

「わしはこの頃少し退屈しておつてな……。ここでお前達をただ食べるだけではつまらぬ」

魔物は出口のものらしき鍵をちらつかせます。

「何か一つ、三人で勝負をしてみせろ。どんな勝負でもよい。そして勝った奴だけは見逃してやろう」

魔物がそう告げると、中の一人が歩み出て、本当にどんな勝負でもいいのかと尋ねました。

「うむ、わしに二言はない」

三人は円陣を組んでヒソヒソ話をしました。そして先ほどの男が魔物に訊きました。

「ジャンケンにご存じですか？」

「ジャンケン？ いや、知らぬな」

「拳は二本指より強く、二本指は掌より強く、掌は拳より強いという、遙か東方の国々でたしなまれる勝負です」

「ほう、なにやら面白そうな勝負じゃのう……。よし分かった、お前達それをやってみせい！」

三人は同時にジャンケンしました。

「僕は拳なので、二本指に勝ちました」

「ふむ、では行っていいぞ。それではお前達二人が今晚の食事——」

「俺は二本指なので、掌に勝ちました」

「そうか。お前も行っていいぞ。それじゃあ残ったお前が今晚の――」

「私は掌なので、さっき出てった拳に勝ってます」

「ん？ ……そう言えばそうだったな。行っていいぞ」

一人ぽつんと残された魔物は、なんだか釈然としない気分で首を傾げるのでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4906j/>

魔物と三人の盗賊

2010年10月9日08時35分発行